

平成 29 年度
大刀洗町住民協議会 答申
「防災について」

平成 29 年 3 月 27 日
大刀洗町住民協議会

目次：

1. 答申にあたって	2P
2. 住民協議会実施概要	3P
3. 各委員の考える「課題」の概要	4P
4. 『避難所運営』に関する委員からの改善提案概要	5P
5. 委員からの改善提案概要	10P
6. 防災の自分ごと化について	16P
7. 付録：アンケート結果	18P

1. 答申にあたって

大刀洗町長 安丸国勝 様

昨年12月から4回にわたって行ってきた住民協議会。各回における委員からの意見やシートに記入した内容を集約し、このたび答申を出すこととなった。これで、委員としての役割が一段落することとなり、まずは安心している。

私たちに与えられたテーマは、昨年度の住民協議会に引き続いて「防災」。大刀洗町は大きな災害が少なく安全な町だと言われていたし、私たちもそう思っていたが、昨年7月の九州豪雨では大刀洗町としては初めての「避難指示」も出された。行政としては、昨年度よりもさらに具体的に防災について考え、「避難所運営マニュアル」を作るための材料にすることが今回の協議会の特徴でもあった。

初めのうちは、防災について『何を考えたら良いのかがわからない。』という委員が多かったように思うが、回を重ねるごとに、防災を身近に感じられるようになったり、自分や家族の身を守ることはもとより、地域の一員としてもできることをしていこうという意識が高まった。

また今回は、従来の進め方とは違ったようだが、少人数のグループワークを毎回行った。大きな特徴は各グループに課長が加わって議論したこと。「防災は担当課だけでなく役場全体で考えるべき問題」という町長の意思が形になっていたと思う。職員と同じ立場で意見交換することはとても新鮮で良かった。

今回の協議会の大きな目的の一つであった「避難所運営マニュアル」については、原案だけでは住民にとっては読みにくくもう少し整理が必要という意見が多く、また、全住民を対象とした「簡易版」や、「地域版」として校区ごとにマニュアル作成を可能にするための様式を行政が作るべきなどの意見が多く出ていた。マニュアルに記載すべき考え方や、その周知・活用法について多くの意見が出ているので、それらを十分に活用していただきたい。

この協議会に参加したことで、私たちは町や社会のことを少しずつ「自分ごと」として捉えられるようになった。過去の協議会参加者は既に150名を超えており、OBOG会も発足している。私たちもこれで終わりにせず、今後も積極的に町にかかわりを持っていきたい。

平成30年 3月27日
大刀洗町住民協議会委員 一同

2. 住民協議会概要

大刀洗町としては4期目（6テーマ目）となる「住民協議会」を実施した。
委員、テーマ及び各回の議論は以下の通りである。

○委員

無作為に抽出し協議会委員の案内を送付した数	500件
応募した委員（応募率）	26人（5.2%）
参加した委員の数 （抽出とは別に高校生2人含む）	28人

○テーマ及び各回の議論

テーマ：「防災について」

各回の議論

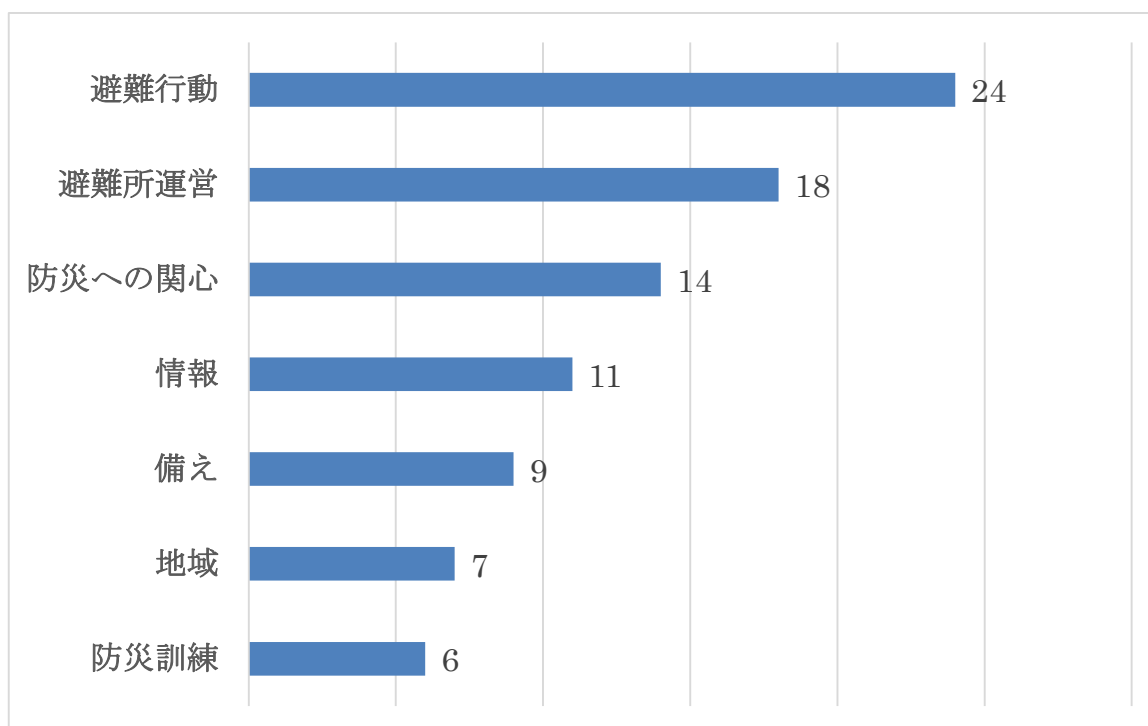
- ・第1回会議：平成29年12月3日（日）
住民協議会の概要説明（構想日本）
テーマに関する説明（地域振興課）
委員の自己紹介など
- ・第2回会議：平成30年1月13日（土）
テーマに関してグループディスカッション
「改善提案シート」の記入 など
ナビゲーターの参加
- ・第3回会議：平成30年2月3日（土）
テーマについて全体で協議
「改善提案シート」の記入 など
ナビゲーターの参加
- ・第4回会議：平成30年2月24日（土）
「改善提案シートの中間とりまとめ」について全体で議論
「意見提出シート」の記入 など

3. 各委員の考える「課題」の概要

各委員が第2、3回会議で記入した「改善提案シート」と第4回会議で記入した「意見提出シート」の内容をまとめると、「防災」に関する現状の課題については89項目挙げられた。

それらを大まかに分類すると以下のようなになる。

「現状の課題」性質別とりまとめ



大きくは7項目、具体的な課題は14項目に分類された。

同じテーマで議論した昨年度は、備蓄などの備えや、防災への関心の低さに関する課題が多く出ていたが、今年度は、大刀洗町としては初めて「避難指示」が出され避難した人も多数いた「九州北部豪雨」の記憶が新しかったことや、行政として「避難所運営マニュアル」の策定を目指していることもあり、避難に関しての課題が多く出された。

4. 避難所運営に関する委員からの改善提案概要

(1) 避難所運営マニュアルについて

① 避難所運営マニュアル(案)の中で、追加・修正が必要だと思う内容

○避難所運営マニュアルのレイアウトを工夫する

- 項目ごとに、すぐを開けるようにする（ページの色わけなど工夫をする）。
- 「町として」「住民として」「行政として」の取組みで分けて、要点をまとめる。
- 避難所の場所や経路を書き込めるようにする。
- 大項目・小項目「①(1)」の示し方がわかりにくい。
- 文量は極力短くし、要点をもう少しまとめる。
- 子どもからお年寄りまで見られるようにするなら、わかりやすく見やすいマニュアルを作成する（じっくり見れば良く理解できる）。
- 施設管理者に配るなら、細かく作られていて良いと思う。
- もう少し時間軸がわかりやすいようにする。
- フローチャートがあるとわかりやすい。

○地域住民のためのマニュアルの作成を検討

- 地域住民のためのマニュアルの見本（手引き）を町が用意し、地域の実態に合わせて、地域住民が修正し、実効性のあるマニュアルを作れるようにする。
※【参考】青森市の避難所マニュアル作成例（携行版）
- 各避難所でレイアウトが異なるので、地域の避難所ごとに避難所運営マニュアルを作っても良いと思う。

○マニュアルの記載内容について

- 『(2) 応急・復旧期』の中にある「避難所等の運営のための業務」の項目は、『(1) 初動期』に載せるのが好ましいのではないかと？
- 初動期（避難所を開設してから数時間分）をしっかりと作りこんだ方がいい。
 - 例えば、災害発生後 24 時間を過ぎると、被害の様子も分かり落ち着くと思うので、それまでの間のマニュアルが必要。
- 避難所運営マニュアルに連絡先一覧表（役場、病院、警察、役員など）の電話番号を記載する。
- ⑫-(2)配給の中の「目安：飲料水は 1 人 1 日 3 リットル、食糧は 1 人 1 日 3 食」の項目を削除する必要はないか（避難者が過剰に期待する可能性があるため）。

○簡易版マニュアルの作成を検討

- 避難所運営を実施するにあたり対象者（行政、避難者、役員等）別に簡易化したマニュアルを作成する。その際、対象者によっては右開きにするなど見やすくする。
- パンフレットとして見られるように文字の分量を短くする。
- 避難所運営マニュアルのものとは別に、見開き1ページ程度のわかりやすいものが必ず必要。

② 避難所運営マニュアルを周知・活用していくための方策

個人の取組み

- 自らの SNS 等で伝える。
- 避難訓練に積極的に参加する。
- 家族で防災の話し合いをして、家族単位で防災意識を高める。
- 自分で出来る事は、自分でする。
- 身の安全を確保する。自助・共助にまず取り組む。
- 日頃から体を鍛えて筋力をつける。
- 避難所がどこかにあるかを確認しておく。
- 避難所運営マニュアルを必ず一読する（手にとってみる）。
- 避難所運営マニュアルがある事を家族・近所に周知していく。
- 避難所運営マニュアルをもとに、災害が起こったことを想定して、災害時の1日目や10日目の自分の行動について考えてみる。
- 避難所に避難所運営マニュアルがある事を覚えておき、有事の際はそれに沿って動くということを心に留めておく。

地域の取組み

- 各区長や班総会で報告する。
- 防災を身近に感じるように各集会で防災の話を持ち出す。
- 避難所運営マニュアルについて区長などの役員で確認し合う。
- 防災に限らず、常に地域で話し合える関係を築く。
- 避難所運営マニュアルの冊子（A4）だけでなく、ホワイトボードほどの大きさに避難所運営についての情報をまとめ、掲載しておく。
- 避難所運営を理解することができる内容を町の掲示板に掲載する。
- 地域内の危険個所の除去や、危険個所を示した看板の設置、枝の除去、草刈りをする。
- 年一回の清掃活動時に避難所運営マニュアルがあることを伝える。
- 地域行事で必ず避難所運営マニュアルの存在と内容の確認を行う。

- 避難所運営マニュアルに沿った防災訓練を行い、その時、備蓄品の確認も皆で行うことで防災意識を高める。

行政の取組み

- 町の HP や広報誌などで避難所運営マニュアルがあることを広報する。
- 災害時に必要な人員と物資を提供できるようにする。
- 避難所運営マニュアルを元にした勉強会を区の責任者にする。
- 防災訓練時に避難所運営マニュアルを使用する（仙台市、青森市を参考にしてはどうか）。
- マニュアルの DVD を製作し、発表する。
- 避難所運営マニュアルの簡易版を全世帯に配る。
- 避難所運営マニュアル（地域版ひな型）を作成する。
- 職員が防災士の資格を取得する。
- 地域との連絡がとれるように、日頃から訓練しておく。

③ その他、委員からの避難所運営に関する改善提案

課題		避難所運営時に気を付けること（意識すべきこと）がわからない
改善提案	個人の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族や近所の人情報を共有する。 ・ 避難所では、知らない人達と一緒にいることが予想されるため、ストレスが少なくなるよう、知っている人同士はなるべく一緒にいるように場所を確保する。 ・ 避難所運営は住民が主体であることを意識する。 ・ 避難所運営は感謝の気持ちを持つことから始める。 ・ ペットを連れての避難が難しいということを考えておく。
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な物や病人等の情報を行政（避難所）に伝える。 ・ 日頃から地域で交流を持ち、災害時には避難所を住民による自主運営ができるような人間関係を形成する。 ・ 区長の集まりなどで話し合う。
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物資等の保管場所がどこにあるのかがわかるマニュアルを作成する。 ・ テレビ等、情報が取得できるものを避難所に準備する。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中学校の訓練に地域の住民が参加することで、形式的な訓練を無くせると思う。また、それをするすることで、家族で話し合うことにも繋がる。 ・ 各自、簡単な名前札を付ける。また役員（お世話係）は名前札で色分けをする。

<参考>

第2回グループディスカッション時に出てきた『避難所運営時に気を付けること』

<p>避難所運営時のリーダーの決め方について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 決定方法の検討が必要（多数決、役員の中からなど）。・ 年代別にリーダー（代表者）を決める必要はないか。	<p>設備関係について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 空調の状態を確認する。また室内の温度を気にする。・ 非常発電や水道などライフラインを確保する。
<p>避難所運営に必要な人員について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 避難者を把握する人（人数、名前、性別、年代、けが・障がいの有無など）。・ お年寄りや子どもの把握とお世話係など。・ 避難所から外出する人の把握も必要。・ 避難所運営の役割分担をどのように決めるか。・ 避難所運営の協力者の確保をどのようにするか。	<p>情報関係について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 災害情報が確認できる体制（テレビ、ラジオ、Wi-Fi、掲示スペース、LINEなどSNS）を作る。・ 避難所内の運営について情報共有ができるようにする（現在の避難者や食料配布についてなど）。・ 避難所と役場との連絡方法は考えられているか。・ 避難所が開設したことはどのように住民に伝わるのか、その方法を知る必要がある。
<p>気配り・プライバシーについて</p> <ul style="list-style-type: none">・ 子ども・病気の方など要配慮者への気配り。・ プライバシーの確保（室内の割り方や授乳スペースなど）。	<p>物資について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 毛布、布団、タオル、衛生用品、薬、食糧は事前に避難所、避難場所に備蓄しておく。またその備蓄量を確認しておく。・ 食糧の配布方法を検討しておく。
<p>衛生について</p> <ul style="list-style-type: none">・ トイレの確保（主に女性用）はどのようにするのか。・ 排尿、排便の処理方法はどのようにするのか。・ 食品の管理はどのようにするのか。・ 感染症予防（トイレ清掃など）はどのようにするのか。・ ごみの回収はどのようにするのか。	<p>ペットについて</p> <ul style="list-style-type: none">・ ペットの対応を避難所・一時避難所で検討する。・ ペットの居住スペースを確保する。
<p>駐車場の使い方について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 緊急車両が駐車するスペースを確保する。	<p>防犯について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 防犯・盗難対策（地域の見回りなど）をする。

課 題		避難所運営マニュアルの活用方法を周知する体制が整っていない
改善 提案	個人の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所運営マニュアルはあくまでマニュアルだと理解する（絶対ではなく、状況の中で判断が必要な場合がある）。 ・ 自分から発信していく。 ・ 避難所運営のあり方（個人・地域・行政の役割）について理解を深め、自主的に行動がとれるようにする。
	地域の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所運営マニュアルを基本とし、有事の際は、スムーズに動ける体制をとっておく。 ・ 避難所運営について学習する機会を設ける。
	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所運営について、小・中学生の段階から、今回の住民協議会の取組みを防災教育として実施する（小・中学校の授業に避難所運営マニュアルの説明を取り入れる。）。 ・ 5年後、10年後を見据えた防災の啓発を推進させる（全国的な取組みに注目されるような啓発）。 ・ 避難所運営マニュアルは、町民が理解、納得していないと、避難者（町民）主体の運営までいきつけない。十二分な広報、啓発、説明会が日頃から定期的に必要。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所運営マニュアルは、すべての事項についてこと細かく決めるより、命に直結するような「避難経路の見直し」「小学校の対応」「避難指示の判断基準」などの具体化が先決だと思う。

5. 委員からの改善提案概要

(1) 避難行動

課 題		避難するタイミングなど災害時の行動の取り方が不安
改善 提案	個人の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは第1に身の安全を確保する。 ・ 近所に声掛けをする。 ・ 自分に出来る事を考える。 ・ 積極的に情報収集する。 ・ 事前に避難所を確認しておく。 ・ 「ありがとう。」の声掛けを大切にする。 ・ 常日頃、災害時に備え必需品を備蓄する。また、最小限の避難グッズを避難所に持っていけるようにする。 ・ 避難する場所、避難経路を最低でも2つ確認し、用意しておく。 ・ 家族内でルールを作る（実行可能かどうか、試してみる）。 ・ 現金が引き出せる場所の確認、または現金を用意しておく（熊本地震の際に、現金が引き出せなくなった。）。 ・ 水害が発生した場合は、2階へ（自宅内の安全な場所へ）避難する。 ・ 家に残るか、家の外に避難するのかの行動の判断ができるようにする。
	地域の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の開設や運営方法についてのマニュアルを確認する。 ・ 高齢者に声掛けをする。 ・ 近所の人たちに声掛けし、一緒に避難する。 ・ 区長、民生委員、リーダーの声を聞く。 ・ 要配慮者がわかる名簿を作成する。 ・ 地域の情報（どこに高齢者がいるのかなど）を開示する。 ・ 区の集会などで、防災ワークシートを各家庭に配り、活用してもらう。
	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定避難所13か所にWi-Fiを設置する（緊急時にWi-Fiが利用できるようにする）。 ・ いち早く情報を収集し、提示する。 ・ いつでも災害は起きるということを常に発信する。 ・ 救護人員と車両の提供をする。 ・ 大刀洗町には総合病院がないので、久留米市、小郡市、甘木地域との連携を確認する。 ・ 大雨災害でこの水位になったら避難指示が出て、避難を自己判断したらよい等の判断シートがあれば発行してほしい（ハザードマップにも同内容を記載してほしい）。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い人たちにも避難したほうが得だと思わせる！！

課 題		避難経路の見直しが必要（危険個所があるなど）
改善 提案	個人の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> 過去の災害状況の把握及び情報を継承する。 避難経路の状況を定期的に確認する。 避難経路の整備をする（草刈り）。
	地域の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> 隣組単位での情報共有をする（危険個所やどのような人が住んでいるのかなど）。 SNS に写真などをアップすることによって、周辺の川の様子などを地域で共有する。 高齢者は徒歩での避難が困難な人もいるので、区で独自の一時避難場所（高台にある民地や空き地など）を設定する。
	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の避難を支援する（資金面や人的など）。 高齢者を避難所へ送るために公用車等の活用を検討する。 一時避難場所に空き地や企業の倉庫などを利用できないか、見直しを行う（区と話し合う）。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップを確認する。 カーブミラーが曇っている（大雨の時） 電柱に危険個所の表示を付けるのはどうか。 水につかりやすい土地や場所がわかるようにする。

課 題		一時避難場所の備蓄状況などが不明確
改善 提案	個人の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> 自分たち家族3日分の食料と水を準備する。 過去の災害状況の把握及び情報を継承する。
	地域の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> 公民館に何があって、何がないのかを事前に把握しておく。
	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> 一時避難場所となる公民館の状況について知らせる。 一時避難場所を見直す（区と話し合う）。

課 題		災害時の小・中学校の対応が不明確
改善 提案	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校ごとに判断基準を明確にさせる。 町でも判断基準を把握することが必要。

課 題		避難指示の判断基準が明確ではない
改善 提案	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごとの判断基準を決定する。 町でも判断基準を把握することが必要。

(2) 避難所運営

「4. 避難所運営に関する委員からの改善提案概要」内の「③その他、委員からの避難所運営に関する改善提案」に記載。

(3) 防災への関心

課 題		災害に対する危機感が薄い
改善 提案	個人の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族で災害について話す機会を設ける（例えば、防災ワークシートを使うなどして、災害時の家族の連絡の取り方や、連絡が取れない場合の行動を確認する）。 ・ 防災についての話を常日頃、行うようにする。 ・ コミュニケーション力を高める。 ・ 情報を得る努力をする。
	地域の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で防災のイベントを設ける。 ・ つながり強化する。 ・ 地域としても危機感を持つ。 ・ 防災訓練をこまめに行うようにする。 ・ 人間関係をより強くする(行事への積極参加を住民に促す)。
	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントで災害への関心を高める。 ・ 定期的な避難訓練を実施する。 ・ 町全体の問題として考えられるように取り組む。 ・ 小・中学校の授業に防災を取り入れる。 ・ 災害への取組みを強化している事を町民に伝える(広報を読まない人にも伝わるように)。 ・ 町の行事などで、数多く防災についてアナウンスしていく。 ・ 職員の意識改革や職員研修を行い、具体的な行動力を高める。 ・ 防災に関するマニュアルを作成する。 ・ 防災デーなどを設けて、防災グッズや学生が作文を発表する。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で起こり得る災害は異なるので、その地域に合った訓練が必要。 ・ 防災だけでなく、町政にも関心を持っていない住民が多いように感じる。

(4) 情報

課 題		日常的に防災の情報に触れる機会がとても少ない
改善 提案	個人の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら情報収集に動く (TV、ネット、ラジオ等)。 ・ 周りの人と関わる。 ・ 家族と話し合いをしておく。 ・ 区長や班長と情報交換ができるようにする。
	地域の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区長と役場との連絡網の緊密化を図る。 ・ 常会等で防災に関する情報を周知する。
	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ できる限り細かな情報を発信する。 ・ 行政区単位で説明会の開催をする。 ・ 正確な情報を開示する。町としてできないことは明確に示す。 ・ 災害時に公民館 (一時避難場所) がどのような役割を果たすのか (鍵を開けるのは区長等) を住民に伝える。

課 題		災害時における情報共有の体制が十分でない
改善 提案	個人の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS から情報を得たり、住民同士で周知し、伝え合う。 ・ 家族内ですぐにコミュニケーションが取れるツール (LINE グループなど) を作っておく。 ・ 既存のツール (電話やメールなど) を有効活用する。 ・ TV、ネット、ラジオ等で情報を確認できるようにする。 ・ 今回の協議会で利用した「防災ワークシート」を使って、災害時の情報の共有方法を考え、話し合い、ルール (連絡網) を決める。 ・ 災害発生後、自身の状況を家族以外の親族等に連絡する。
	地域の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ スピーカー付きの車で回ったり、メールで情報共有ができるようにする。 ・ 地域内ですぐにコミュニケーションが取れるツールを作っておく (例えば、LINE グループ)。 ・ 情報発信責任者を予め決めておく。 ・ 災害時に周辺情報 (画像やコメントなどで) をブログや SNS にアップする。 ・ 隣組で連絡網を作る。 ・ 地区ごとに災害状況を放送する。
	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ LINE などの SNS、メーリングリスト、災害ホームページ等、住民参加型の情報共有ツールを作る。 ・ 可能な範囲で防災の情報発信に有効なツールを検討する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 細かい情報（地区ごとの状況）も発信する。 ・ 避難勧告、避難指示は早めに出す。 ・ 町民に災害時の対応について、一度考えてもらう機会を作る。
--	--	--

(5) 備え

課 題		備蓄が不十分
改善 提案	個人の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な物や必需品の備蓄をしておく。 ・ 食糧、水、着替えの備えを3日以上する。 ・ 何をどれくらい備蓄するのかを家族で話し合う。
	地域の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所の公民館などに常に備蓄をしておく。 ・ 一時避難場所となる公民館に何があって、何がないのか事前に知っておく。
	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政としての備蓄が十分なのかを住民に知らせる。 ・ 災害時に公民館がどのような役割を果たすのかを住民に伝える。 ・ 広報誌等で備蓄について繰り返し伝える。 ・ 各避難所にどのような備蓄があるのか公表する。

課 題		ハザードマップがあまり認知されていない
改善 提案	個人の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4～5年前に配布との事だが、無い家はもう一度お願いして、大事に保管（目立つところに）する。 ・ 防災マップをすぐに取り出せるところに置いておく。 ・ 防災マップがなければもらいに行く。
	地域の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区長を中心に、ハザードマップがない家に訪問してもらい、ハザードマップの大切さを認識してもらう。
	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来のハザードマップをひと工夫してフックタイプにし、各家庭のわかりやすいところに掛けられるようにする。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の住んでいる地域のハザードマップを参考に、土地が低い地点はどこかを頭に入れておくことが大切。

(6) 地域

課 題		自分が暮らす地域にどのような人が住んでいるか知らない（特に要配慮者）
改善 提案	個人の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の地域だけでも人を知ることから始める。 ・ 近隣住民や、知り合いには話ができるので、地域の情報を伝え合う。 ・ （仕事が自営業なので）地域の人々を日々観察する。 ・ 家族や友人などを誘って、町の行事に参加する。 ・ お年寄りの顔を見たときは、あいさつや話をする。
	地域の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域主催の行事などを開いたりして、つながりを作らせる。 ・ 若い世代との交流を通して、若い世代に要配慮者の避難経路や周辺住民について共有する。 ・ 要配慮者のお宅に定期的に訪問する。 ・ 行政区内の人材や資源を知る努力をする（医師や看護師、病院、薬局、障害を持つ人の対応ができる施設など）。
	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民 1 人 1 人からの避難所運営についての理解がないと、マニュアルを作っても紙切れになってしまうので、理解を得るようにする。 ・ 若い世代に行政に関わるイベントへの参加を促す。 ・ 現状の確認をしっかりとする。

(7) 防災訓練

課 題		防災訓練がいつ実施されているか知らない（住民への周知ができていない）
改善 提案	個人の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練がいつ実施されるのかの情報を得られるようにする。 ・ 防災訓練に参加する（自主防災組織の訓練など）。 ・ 防災訓練のタイミングで、避難時の防災グッズの点検をする。
	地域の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回覧板などで防災訓練の日時を知らせる。 ・ 確実に防災訓練を実施する。
	行政の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町の広報誌で日付を周知する。 ・ 年間計画で知らせる。 ・ 各行政区がいつ実施するかを公表する。 ・ 年 2 回の美化運動や空き缶拾い（日曜日の朝）の時など人が集まる時に防災訓練を行うようにする。

- | | | |
|--|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none">・ 小、中学校の避難訓練のある日に邪魔にならないようにしながら、地域住民も参加する。 |
|--|--|--|

(8) 自由記載欄

<住民協議会全般>

- ・ 課題に対する改善案が多く出されており、今後、誰が、いつまでに、どうするのかの決定が必要である。
- ・ 資料も多く、理解するのに時間がかかるので、よければ当日資料を開催前に頂けるといいなと毎回思った。
- ・ 第4回協議会でマニュアル(案)を提示されたが、ある程度は第3回協議会の時点でわかっているので、その時配布された方が検討の時間があつたのではと思う。
- ・ 会議の最後に意見提出シートの記載の時間があつたが、時間が足りなかった。
- ・ 警察や消防、学校の職員の人達も協議会に参加してほしかった。

6. 防災の自分ごと化について

今回の住民協議会では「防災の自分ごと化」が1つのテーマであつた。第4回協議会に参加した委員に以下2つの質問を行った。その質問への回答を下記に示す。

【質問1】 あなたにとって「防災を自分ごとにする」とはどのようなことですか。

- 常に災害は潜んでいるので、大きい、小さい関係なく、災害が起きても対策が取れるように意識を持っておくことが、他人事ではなく自分事することに繋がると思う。
- 行動に移すこと(調べる・集める・話す)。
- まずは身近な人と話し合うことが大事だと思う。私もこの協議会に参加するまで防災には無関心だったが、協議会に参加する度に防災の意識が高まったので、そういった意味で、まずは話し合う場を作ることが大事だと思った。
- 自助・共助から考え、取組むことが重要。
- 災害があつた時、自分の身は自分で守りながら、かつ地域住民として、できる事はしっかり行う。自分が助けられる側になることがないように、家族で準備、確認する。
- 災害時の家族の安全確保と、家族で連絡をとり合い、生き延びる方法を考えること。
- 今まで意識してこなかったが、この機会に防災について考えることができたので、今後も意識すること。
- 西原地区は水が入りやすい地区であり、防災について考える機会は多くあつた。特に今回は朝倉地区の実態を知る機会があり、一層自分のこととして考えるようになった。

- いくら紙ベースで説明しても自分ごとにできないので、各地の災害の映像等を利用して、意識付けを行うことも重要である。

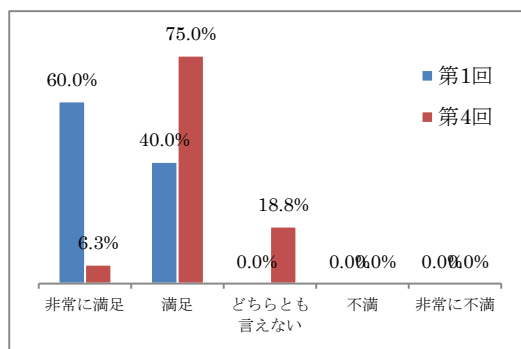
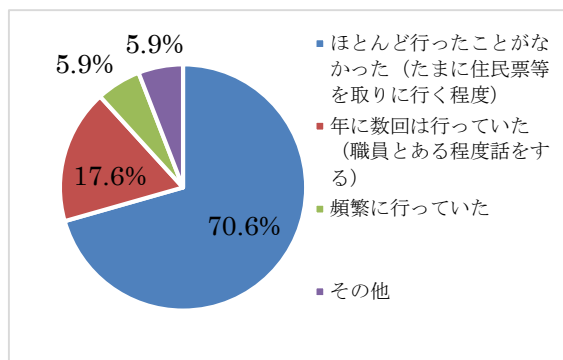
【質問2】また、これまで「自分ごと」にできなかった要因があればご記入ください。

- 行政が開催する行事や、このような住民協議会に参加することがなかった。
- 話し合う機会が持てなかった。
- 大刀洗は他地域に比べて、地震、水害等に安全だと思われているため。
- これまで災害の被害がそこまでなかったため、意識が薄かった（自分は災害には遭わない、自分は関係ないと勝手に思い込んでいた。）。
- 学校での訓練に慣れてしまっていた。
- お互いの信頼関係があるため。

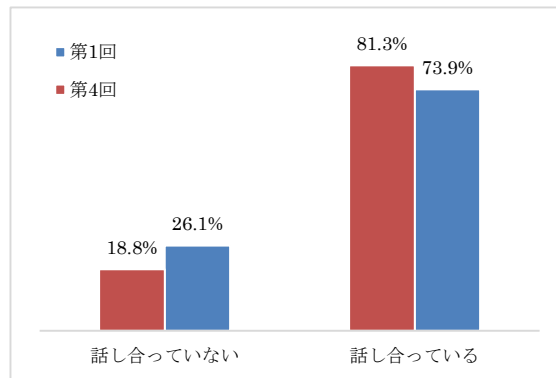
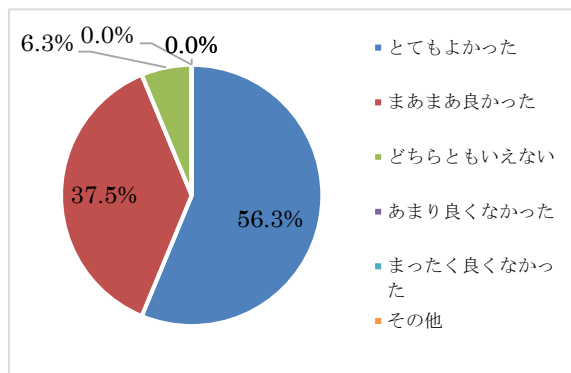
7. 付録：アンケート結果

第4回住民協議会の終了後に実施したアンケートの結果（第1回に実施したアンケートと同様の質問については、その結果を比較して掲載。）

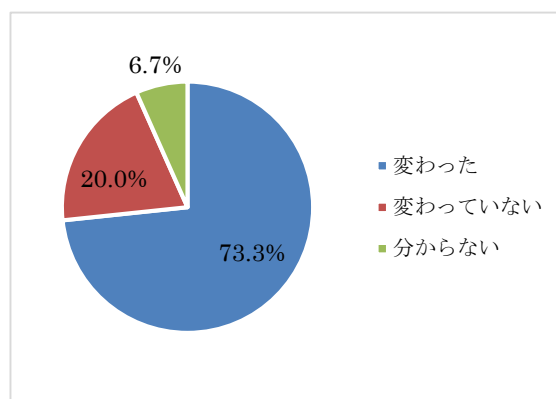
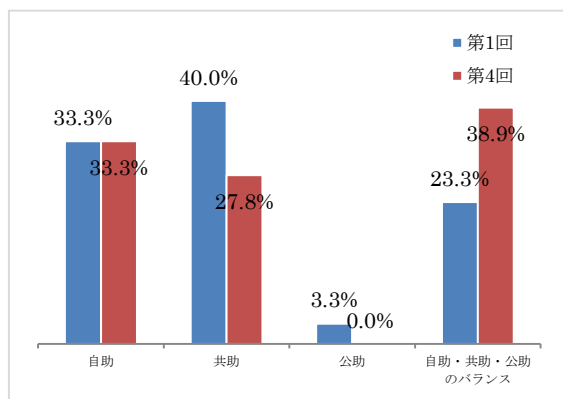
- ① 住民協議会に参加する以前に、大刀洗町役場 ② 住民協議会に参加してみて、いかがでした
とどの程度の関わりがありましたか。 か。



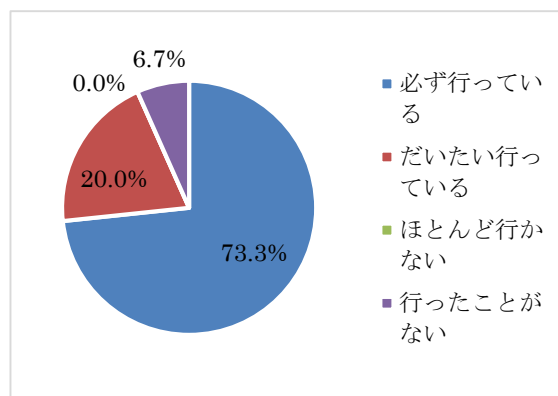
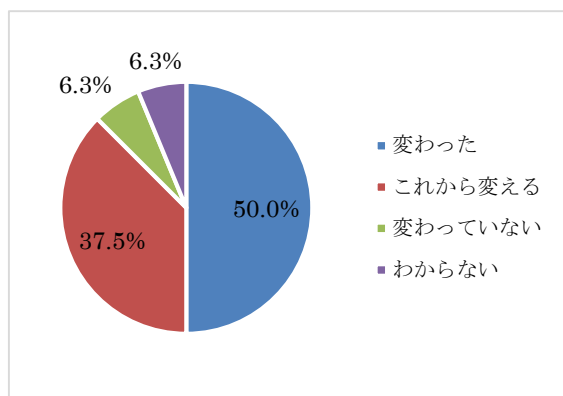
- ③ 今回のテーマ「防災」は、住民が考える内容 ④ 災害について、身近な人と話しあっている
としてどう思われますか。 すか。



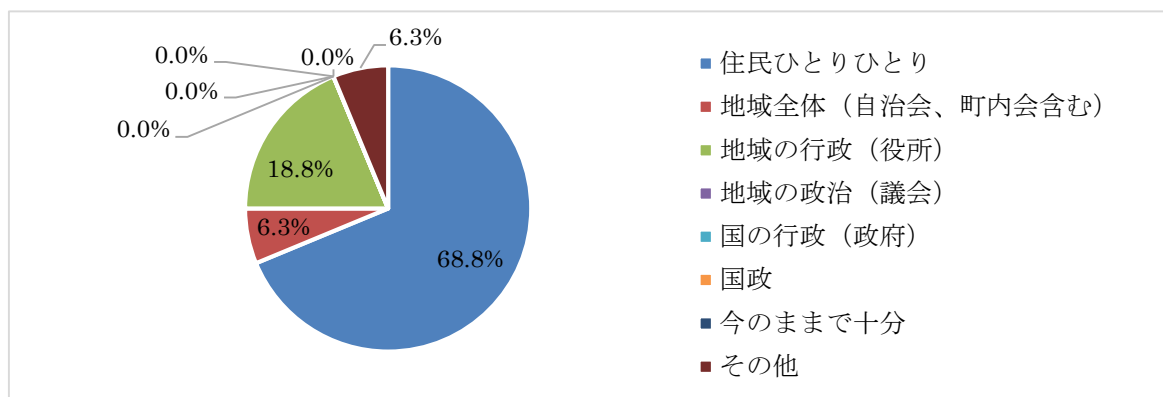
- ⑤ 防災は自助・共助・公助のうち、どれに重点 ⑥ 住民協議会に参加したことで、意識に変化
を置くべきだと思いますか。 がありましたか（防災や町政に関すること）。



- ⑦ 住民協議会に参加したことで、行動に変化はありましたか（防災や町政に関すること等）。 ⑧ 選挙の投票に行きますか。



- ⑨ 大刀洗町をより住みやすくするために、特に誰が主体的に行動することが必要だと思いますか。



<⑥「意識の変化」の具体事例>

- ・ 地域に対して無関心だったが、自分も地域の1人として町の色々な事に関心が向くようになった。
- ・ 知ろうという気持ちが大きくなった。
- ・ 行政任せにせず、自分や身近な人と話し合うことが大事だと思った。
- ・ 共助の大切を痛感した。高齢者が多く住む地域に住んでいるので、今回の協議会で得た事々を普及したいと考えている。
- ・ 防災に対して大きく意識が変わった。消防としても役に立つ。
- ・ 地域、町と協力していくという意識が変わった。
- ・ 災害をきちんと考える良い機会になった。

<⑦「行動の変化」の具体事例>

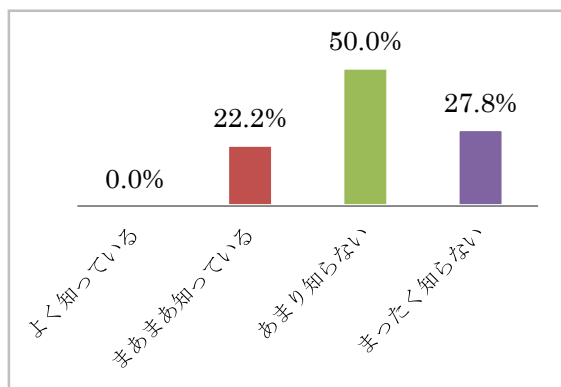
- ・ 町の広報誌を読むようになった。
- ・ 地域の行事に参加するようになった。
- ・ できる事は家族のこと以外にも、人のことも喜んで関わっていきたい。
- ・ 『広報たちあらい』を見るようになった。
- ・ 避難用具の準備と避難所を確認した。
- ・ 避難所の確認・災害時のルート確認、水に浸ってしまう所等の確認をした。

<その他感想等>

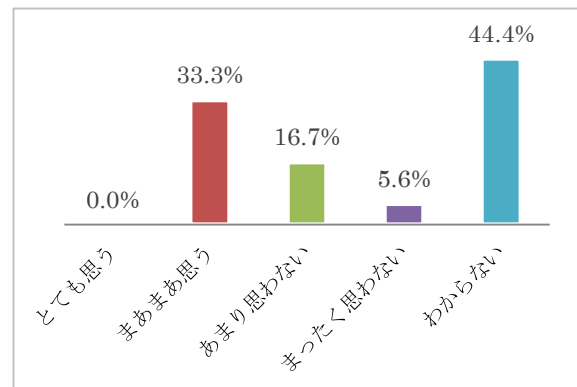
- ・ 参加してよかった。今回の協議会に全年代が呼ばれていると思うが、もう少し若い世代が入ってもいいのかな、と思う。
- ・ 4回は短い。もっと回数があった方がいいと思う。
- ・ 住民協議会に参加でき、嬉しかった。この気持ちをいつまでも持ち続けたい。
- ・ 大刀洗町の職員さんへのあたりが強い様に感じた。
- ・ 色々な考え、意見が出てくる中で、様々な対策が取れる町はやはり素晴らしいと思う。もっといい対策が取れる町になるといいなと思った。
- ・ 住民ひとりひとりも大切だが、やっぱり町のトップの人の力、心意気、新しい事への転換と挑戦は、大切かと思った。

【参考】第1回住民協議会に実施したアンケート結果を下記に示す。

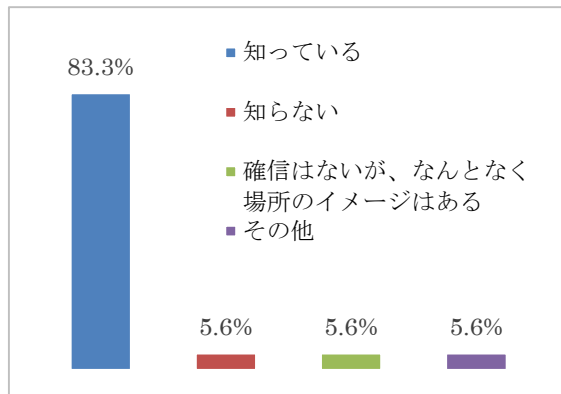
① 大刀洗町がどのような防災対策を行っているか、知っていますか。



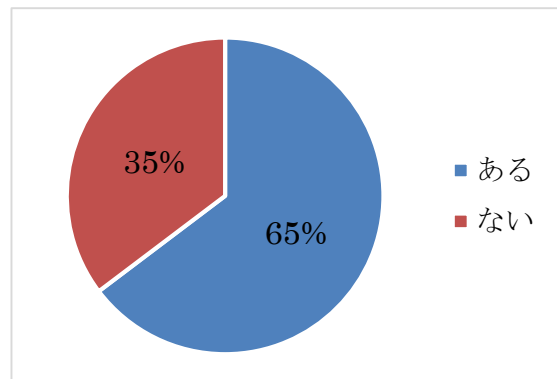
② 大刀洗町の防災に対する取組みは進んでいると思いますか。



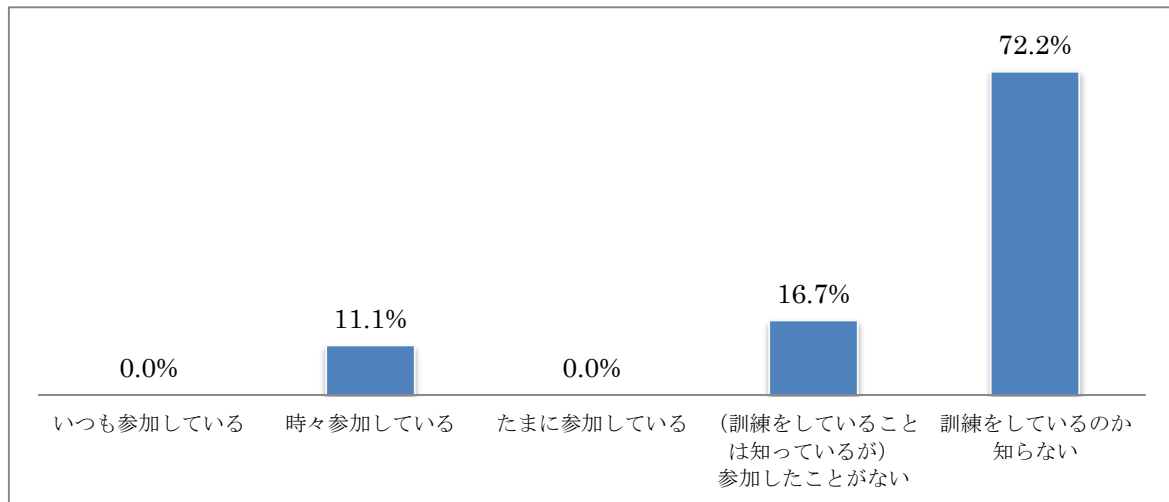
③ あなたがお住まいの地区で災害が発生した場合、どこに避難すべきか（一時避難場所、指定避難所等）をご存知ですか。



④ 一時避難場所や指定避難場所を見たり、直接足を運んだりしたことはありますか。



⑤ 地域の避難訓練や防災訓練に参加していますか。



7. 平成 29 年度住民協議会参加者

委員	葉玉 渚	委員	小河 治美
委員	柳 宏司	委員	原 新子
委員	松田 大樹	委員	南 浩一
委員	大浦 貴史	委員	秋吉 誠
委員	山下 美穂	委員	古賀 賢治
委員	中島 悠子	委員	中村 京子
委員	中垣 晃博	委員	山田 富江
委員	藤野 直人	委員	實藤 量徳
委員	鹿毛 靖久	委員	古賀 龍二
委員	橋本 麻希	委員	秋吉 淳二
委員	中垣 智子	委員	小川 正
委員	小林 逸朗	委員	中山 久典
委員	本田 正治	委員	浜境 良雄
委員	平田 秀信	委員	高倉 茂行

構想日本

<コーディネーター>

- ・伊藤 伸 (構想日本 総括ディレクター)

<ナビゲーター>

【第 2 回】

- ・堀 洋信 (茨城県常総市 保健福祉部 健康保険課 課長)

【第 3 回】

- ・福嶋 浩彦 (中央学院大学教授、元消費者庁長官、元千葉県我孫子市長)